

勝股 行雄 (Yukio KATSUMATA)

学位： 修士（文学）

略歴： 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

専門分野： 英語教育

研究課題： 学校英語教育再考・コミュニケーションの観点に立った学習英文法の構築

【論文】

- ・「国際交流への取組」（『愛知文教大学論叢』第20号，2018. 3）
- ・「学校文法における仮定法指導の再検討」（『愛知文教大学教育研究』第7号，2017. 3）
- ・「BE動詞指導をめぐる諸問題」（『愛知文教大学教育研究』第6号，2016. 3）
- ・「コミュニケーションな英語指導をめざして」（『愛知文教大学教育研究』第5号，2015. 3）

【その他】

- ・「現代世界における英語の役割」（出張講義、於・瀬戸北高校，2018年3月）
- ・愛知県商業高校スピーチコンテスト審査員（2016年10月～現在）
- ・講演「日本人と英語学習」（愛知文教大学公開講座，2017年10月）
- ・「世界の言語と英語」（出張講義、於・杜若高校，2017年2月）
- ・講演「英語とはどのような言語か」（愛知文教大学公開講座，2016年7月）
- ・講演「カタカナ語との付き合い方」（愛知文教大学公開講座，2016年1月）
- ・愛知県立学校評議員（2016年4月～現在）
- ・愛知県立学校英語初任者研修講師（2013年度）

【研究テーマ】

英語学習への関心はかつてないほどに高まっていますが、日本の学校での英語教育にはしばしば厳しい目が向けられています。曰く、日本人が英語をしゃべれないのは学校英語教育のせいだ、と。しかし何がどういけないのかについての議論は必ずしも実のあるものにはなっていません。教育をめぐる問題への取組みにはしっかりした視点を定め、冷静な議論が必要です。そのために、私は日本でこれまで様々に行われてきた英語教授法の検証のうえに立って、時代に合った効果的な学校英語教育のあり方についての研究を行っています。また、英文法は「悪」と決めつける風潮が少なからずありますが、どんな言語も文法なしには存在しえません。コミュニケーションを常に視野に入れて学習者の立場に立った新しい学習文法の構築にも取り組んでいます。